

NO	種別	科名	種名	1950		1960~2000		2004~2006		2014~2018		備考 2015~2018年の調査から考察 (城沼は2016~2018)				
				2006関係の報告より				関係の確認		本協議会の調査						
				多々良沼	城沼	多々良沼	城沼	多々良沼	城沼	多々良沼	城沼					
1	在来種	ウナギ科	ウナギ	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼では毎年放流あり				
2		アユ科	アユ	○	○	○	○	○	○	○	○	一時期見られたのは、自然遡上または放流流下?				
3		キュウリウオ科	ワカサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	城沼では毎年(2018年除く)卵放流あり				
4		サケ科	サケ	○	○	○	○	△	△	○	○	一時期見られたのは、自然遡上?				
5		コイ科	ウグイ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	生息量少ない?(河川生息が適しているから?)			
6			アブラハヤ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	生息量少ない?(河川生息が適しているから?)			
7			カマツカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼に多少見られる、城沼は見られず			
8			モツゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼でスジエビに次ぐ採取数、魚類では生息数最大			
9			シナイモツゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅			
10			ニゴイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼でやや多いが、城沼では生息量は少ない			
11			コイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採取個体数は少ないが、生息数は多数と思われる			
12			キンブナ	○	○	○	○	△	△	○	○	○	両沼ではあまり見られていない。群水試で種保存			
13			ギンブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量が多い、群水試で種保存			
14			タナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅			
15		ヤリタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず、群水試で藤岡市産を種保存				
16		ミヤコタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅				
17		アカヒレタビラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅				
18		ゼネタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅				
19	ナマス科	ナマス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量も多くはないが、安定して生息				
20	ドジョウ科	ドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	△	両沼とも多数生息と思われるが、採捕方法が適していない?				
21		シマドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず				
22		ホトケドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず				
23	ギギ科	ギギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず				
24	メダカ科	メダカ	○	○	○	○	△	△	○	△	○	両沼で希少種となっている				
25	ボラ科	ボラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	海からの遡上ができなくなっている?				
26	ハゼ科	トウヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量少なくなると、比較的安定して生息				
27		ヌマチチブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず				
28		ジュスカケハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼では報告なし、城沼では長年見られず				
29		ウキゴリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近生息量が徐々に増え復活か?			
1		移入種	オिकカワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼では安定して生息、城沼は少ない?			
2	ハス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼だけで生息量は少ない				
3	ワタカ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で採取、生息量は少ない			
4	ツチフキ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量も比較的多く、安定して生息、城沼特多い			
5	タモロコ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量も比較的多く、安定して生息		
6	ホンモロコ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で採取なし、過去には多々良沼だけ見られた		
7	スゴモロコ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼で比較的安定して生息、城沼は少ない		
8	ピロヒガイ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼で見られ、城沼では採取なし		
9	ゲンゴロフナ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎年多数放流されている		
1	外来種	コイ科	タイリクバラタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼とも生息数比較的多く、安定して生息している		
2			ハクレン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近ほとんど見られない	
3			ソウギョ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近ほとんど見られない	
4			アオウオ	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	最近ほとんど見られない	
5		カダヤシ科	カダヤシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近ほとんど見られない	
6		ギギ科	コウライギギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼で生息量年々増、城沼は採取1尾	
7		タイワンドジョウ科	カムルチー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量は少ないが、安定して生息	
8		バス科	オオクチバス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量も比較的多く、安定して生息
9			コクチバス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	確認数は些少、繁殖は?
10			ブルーギル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で比較的多く生息、特に城沼で多数採取された
11		ドンコ科	ヨコンマドンコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼の2018年調査で1尾だけ確認
12		アメリカディ科	アメリカナマス	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	確認数は些少、繁殖は?
1	在来種	イワガニ科	モクスガニ									○	○	○	毎年遡上あり	
2		テナガエビ科	スジエビ									○	○	○	○	両沼で採取数圧倒的に多く、安定して生息
3		テナガエビ										○	○	○	○	生息量も比較的多く、安定して生息
4		ヌマエビ科	ヌマエビ類									○	○	○	○	採取数は少ないが、岸部で安定して生息
5		タニシ科	ヒメタニシ									○	○	○	○	採取数は少ないが、実際の生息数多いと思われる
6		イシガイ科	ドブガイ									○	○	○	○	採取数は少ないが、タナゴ類の繁殖に不可欠
7			イシガイ									○	○	○	○	採取数は少ないが、タナゴ類の繁殖に不可欠
1	外来種	ヌマガメ科	ミシシッピ-アカミミガメ								○	○	○	○	在来種のイシガメ、クサガメは採取なし	
2	アカガエル科	ウシガエル(幼生)									○	○	○	○	安定して生息か?	
3	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ									○	○	○	○	安定して生息	
魚類種数				28	29	22	26	31	23	25	23					
エビ・カニ・貝類種数										8	10					
総種類数計				28	29	22	26	31	23	33	33					

- ※1 確認欄の○印は調査で確認されているもの(◎印は生息数の多いもの)を示す。
- ※2 確認欄の△は同上調査で確認されていないが、同調査以外で確認されている。
- ※3 表中種名欄の背景を塗りつぶしたものは「特定外来種」を示す。    移入・外来魚類の空欄  
    在来魚類のうち採取・発見がなく絶滅が心配される空欄  
    在来魚類のうち注意が必要な空欄

表 5-5-1 採取個体数の比較一覧（多々良沼：2015～2018 年度）

項目	科名	種名	2015年	2016年	2017年	2018年	
魚類	ウナギ科	ニホンウナギ	2	○		3	
		コイ科	コイ	○	3	3	1
		フナ類	519	160	559	148	
		タイリクバラタナゴ	180	78	8	6	
		ハス			2		
		オイカワ	19	69	32	2	
		ワタカ	7	3	3	6	
		モツゴ	2,504	824	3,706	2,805	
		ビワヒガイ	1	1	1		
		タモロコ	98	2	484	16	
		カマツカ	7	1		1	
		ツチフキ	33	16	37	9	
		ニゴイ		2	19	1	
		スゴモロコ類（スゴモロコ）	15	31	88	27	
		ドジョウ科	ドジョウ	○	○	○	○
		ギギ科	コウライギギ	8	27	52	187
		ナマズ科	ナマズ		○	○	○
		メダカ科	ミナメダカ	○	○		○
		サンフィッシュ科	ブルーギル	46	13	27	5
			オオクチバス	5	1	6	
	ドンコ科	ヨコシマドンコ				1	
	ハゼ科	ウキゴリ	1	1	○	○	
		旧トウヨシノボリ類	1	1	○	○	
	タイワンドジョウ科	カムルチー（ライギョ）	3	1	3	1	
小計	10科	24種	個体数	3,449	1,234	5,030	3,219
			種類数	20	22	20	21
貝類	タニシ科	ヒメタニシ	○	○	○	○	
	イシガイ科	イシガイ				△	
		タガイ（ドブガイB型）	○	○	○	△	
		ヌマガイ（ドブガイA型）	○	○	△	△	
小計	2科	4種	個体数	-	-	-	-
			種類数	3	3	2	1
甲殻類	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属（シナヌマエビ）	○	○		○	
	テナガエビ科	テナガエビ	122	15	32	198	
		スジエビ	22,381	9,332	6,033	2,694	
	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	5	○		○	
小計	3科	4種	個体数	22,508	9,347	6,065	2,892
			種類数	4	4	2	4
両生類・ 爬虫類	アカガエル科	ウシガエル	9	○	○	○	
	ヌマガエル科	ヌマガエル	○	○		○	
	ヌマガメ科	ミシシippiaアカミミガメ	2	2		3	
小計	3科	3種	個体数	11	2	0	3
			種類数	3	3	1	3

注1)分類・種名及び配列は、主に「平成30年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成30年11月、国土交通省）に準拠した。

注2)種名の（ ）内は昨年度までの報告書で使用されていた種名である。

注3)過年度調査との比較のためゲンゴロウブナ、ギンブナ及びフナ類はフナ類として1種にまとめた。

注4)○は大型定置網以外の漁法で採捕されたことを示す。

注5)△は殻のみによる確認で種類数の合計に含めなかった。

表 5-5-2 採取個体数の比較一覧（城沼：2016～2018 年度）

項目	科名	種名	2016年	2017年	2018年	
魚類	ウナギ科	ニホンウナギ	1	1	5	
	コイ科	コイ	15	48	4	
		フナ類	220	876	366	
		タイリクバラタナゴ	96	32	132	
		オイカワ	1			
		ワタカ	2		4	
		モツゴ	5,665	7,227	9,039	
		タモロコ	274	105	420	
		ツチフキ	119	839	84	
		ニゴイ	1			
		スゴモロコ類（スゴモロコ）	1		1	
	ギギ科	コウライギギ	1	1		
	ナマズ科	ナマズ	5		14	
	キュウリウオ科	ワカサギ	570	440	5	
	サンフィッシュ科	ブルーギル	266	195	1,091	
		オオクチバス		1	1	
	ハゼ科	ウキゴリ	1		1	
旧トウヨシノボリ類		24	13	16		
タイワンドジョウ科	カムルチー（ライギョ）	4		3		
小計	8科	19種	個体数	7,266	9,778	11,186
			種類数	18	12	16
貝類	タニシ科	ヒメタニシ		○	○	
	サカマキガイ科	サカマキガイ			○	
	イシガイ科	イシガイ		△	△	
ヌマガイ（ドブガイA型）			△	△		
小計	2科	2種	個体数	-	-	-
			種類数	0	1	2
甲殻類	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属（シナヌマエビ）	1		17	
	テナガエビ科	テナガエビ	9	55	50	
		スジエビ	12,404	20,105	75,104	
	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	22	4	3	
	モクズガニ科	モクズガニ	1	1	1	
小計	4科	5種	個体数	12,437	20,165	75,175
			種類数	5	4	5
両生類・爬虫類	アカガエル科	ウシガエル			1	
	ヌマガエル科	ヌマガエル	1			
	ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ	1	3	14	
小計	3科	3種	個体数	2	3	15
			種類数	2	1	2

注1)分類・種名及び配列は、主に「平成30年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成30年10月、国土交通省）に準拠した。

注2)種名の（ ）内は昨年度までの報告書で使用されていた種名である。

注3)過年度調査との比較のためゲンゴロウブナ、ギンブナ及びフナ類はフナ類として一種にまとめた。

注4)貝類の○は城沼内での確認。△は古城沼もしくは古城沼幹線排水路における確認である。